



小水力発電に関する現地説明会、講演会を開催しました。

当事務所では、既設砂防堰堤を利用した新たな小水力発電の取り組みとして、砂防堰堤の越流水の落下により発生するエネルギーを直接利用する滝用水車形式による発電設備を樋ノ沢第1号砂防堰堤に設置しました。

また、2月7、8日に現地説明会及び、本取り組みに際し、技術指導を頂いている信州大学工学部池田敏彦教授を講師に迎えての講演会を開催し、2日間で報道機関を含む延べ70名以上の参加がありました。

引き続き、当事務所では、滝用水車の発電効率、耐久性に関するモニタリングを行い、適宜、情報発信をしていく予定としています。

①現地説明会(2月7日)開催状況



当日は、自治体等の関係機関、及び報道機関の参加のもと、説明会を実施。400W以上の発電出力が確認される。

②講演会(2月8日)開催状況



信州大学工学部環境機能工学科池田敏彦教授より、現在の小水力発電の現状、課題等を各地の事例を元に説明して頂く。樋ノ沢のように電気の通っていないような地域では有効な発電手段になると解説。



講演とあわせ可搬式水車発電機の実演を実施。水車の発電電力でLEDを点灯させる。発電機は重量が8.9kgで、持ち運びが可能。災害時に照明等の電源としての利用を考えているとのこと。